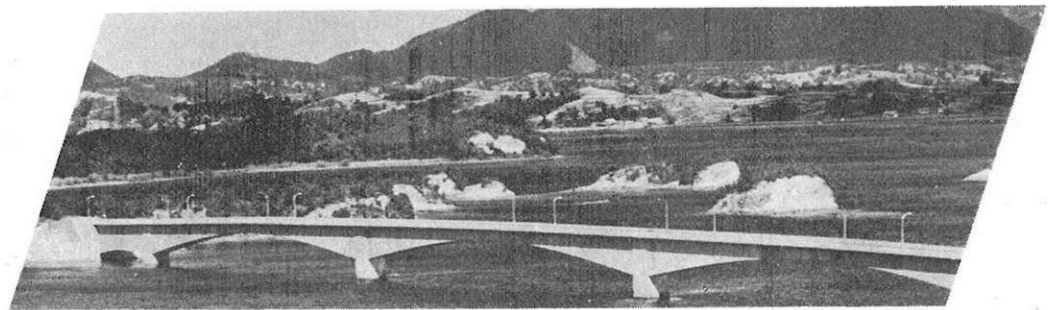


第6章——国民的観光レクリエーション地帯の形成



第1節 観光開発の基本方向

もその伸びは、昭和三十六年から四十一年までの間に年一三%と、全国ならびに九州のそれを大きくぬいている。

また、本県の観光は、現在阿蘇から熊本を経て天草に至るルートを大きな流れとして、さらに県内各地に入り込むような形となっている。そして、これら各地は、雲仙、別府、宮崎・日南海岸、霧島など、九州の代表的な各観光地と結ばれ、本県が位置的に、また交通上も九州の中心にあたることも関連して、九州における観光の中核拠点となっている。

しかしながら、このような中心性は、交通基盤の整備によって、反面では、通過観光という方向に働くことも考えられる。例えば、昭和四十二年に県内観光地を訪れた観光客のうち、県外者は六〇%を占めているのに対し、宿泊客は三二%にとどまっている。今後なおいっそう、自動車交通が発達して観光旅行も広域化し、流動化することにもない、宿泊施設をはじめ自動車交通に即応する施設の整備をはかるとともに、各観光地がそれぞれの特性を生かし、滞留観光客の増加につとめる必要がある。

以上のほか、今後さらに改善を要すべき点としては、これら各観光地をさらに有機的に結びつけ、県内における広域観光ルートを形成し、それぞれ、特色に富み、観光客にとって、いづれも魅力あるものとして目に映じ、一日でも長く足をとどめ、また幾度も訪れたいという気持ち

国民生活の向上と都市生活者の増加、余暇時間の増大などによって、人々のレクリエーション活動は今後ますます盛んになるものとみられるが、特に本県は九州広域観光ルートの中心地に当たり、阿蘇、天草の両国立公園のほか各地に豊富な観光資源をもち、きわめてすぐれた立地条件を有している。

したがって、今後における観光レクリエーション需要の増大や高速自動車道、新空港、新幹線鉄道など交通基盤の整備さらには自動車交通のいっそうの発達に即応して、九州広域観光ルートの拠点としての地位の向上をはかり、①阿蘇を中心とする高原観光地帯、②天草、芦北海岸を中心とする海洋観光地帯、および③人吉球磨、矢部を中心とする森林観光地帯を形成し、国民的観光レクリエーション地帯としての発展をはかる必要がある。

◆現況と問題点

本県を訪れる観光客は、(表1)にみられるように、年々増加している。しか

をいなくようにつとめるとともに、九州の他の観光地との関連性をいっそう深め、九州における広域観光の拠点としての地位の向上を促す必要がある。

◆将来の展望

将来、週休二日制が普及していくと、国民の余暇時間がふえることにより、観光レクリエーション需要は飛躍的に増し、戸外レクリエーションに費やす時間、昭和六十年には、昭和四十年の約二倍に拡大するとみられている。このよ

うに増大する観光レクリエーション需要に対し、国は九州に対して、国民的観光レクリエーション基地の形成を期待している。

さきに述べたように、九州においても、また全国的にも、幾多のすぐれた観光資源を持つ本県は、こうした国の期待とあいまって、諸条件の整備をすすめることによって、九州における位置的中心性を生かし、さらにはいっそう発展する。このような見通しのもとに昭和六十年には、(表2)のとおり、基準年次の実

表1 主要観光地における観光客数の推移 (単位:千人)

区分	昭30	昭35		昭40		昭42		伸び率(%)	
		構成比(%)	昭35	昭40	昭42	構成比(%)	昭42/35	年率	
総数	4,557	100.0	6,494	11,093	15,400	100.0	237	13.1	
熊本市	1,632	35.8	2,548	3,880	4,335	28.1	170	7.9	
阿蘇	1,228	26.9	1,775	3,682	4,032	26.2	227	12.4	
天草	270	5.9	317	540	3,154	20.5	995	38.8	

表2 観光客の見通し (単位:千人)

区分	基準年次		昭50		昭60		伸び率(%)		
	(昭42)	構成比(%)	昭50	構成比(%)	昭60	昭50/42	年率	昭60/50	年率
総数	15,400	100	28,505	100	46,435	185	8.0	163	5.0
県外客	9,285	60	18,528	65	32,505	200	9.0	175	5.8
県内客	6,115	40	9,977	35	13,930	163	6.3	140	3.4

◆対策の方向と重要施策

(1) 交通基盤の整備

観光の発展、特に国民的な規模で観光レクリエーション基地の形成を実現するには、まず交通基盤が整備されなければならない。このため、九州縦貫自動車道、新熊本空港、新幹線鉄道など、高速交通体系の整備を促進し、日本列島の骨格交通体系の中で、国内主要都市との時間距離の短縮をはかる。また、国道および主要地方道などの整備を推進し、県内各観光地間の関連を深め、県内各観光地における観光客の滞留の増大を促し、県内観光ルートの形成をはかる。

さらに、空路については、国内主要都市、九州の主要都市とを結ぶ、国内航空路および東南アジア、台湾などと結ぶ国際路線の開設を促し、増大する航空機による観光需要に対処することにも、大型フェリーの就航を促し、長崎や鹿児島など、県外観光地との関連を深める。

このようにして、交通基盤の整備を進めることによって、県内観光ルートの形成とともに、九州観光における循

(2) 特性ある観光地の形成

それぞれの観光地の特性を生かしながら、次節以下で述べるような高原、海洋、森林観光地帯を形成していくが、特に中枢都市熊本においては、水と森を生かした都市美の形成につとめ、宿泊、会議施設などの整備をはかるとともに、情報、幹線機能の向上につとめるほか、全国の主要都市と結ぶ航空路の開設、さらには九州各地へ向けての観光バスの発着など、九州広域観光における拠点都市として中核的な向上をはかる。

また、県下各所にある県立公園を整備して、県民の余暇活用のためのレクリエーション地域を形成する。玉名、山鹿、菊池など熊本市周辺温泉群は、会議、観光都市熊本の都市観光における機能の一部を分担し、休養レジャーおよび保養の場として十分活用されるよう、宿泊施設、レジャーなどの整備と観光サービスの向上を促す。

(3) 観光の宣伝紹介の推進

観光の振興発展にとつては、紹介宣伝がきわめて重要なことである。このため、九州各観光地とも連けいを保ち、創意と工夫をこらし、民間関係機関と一体となって、あらゆる機会と手